

## 保育會の感想

關西一會員

十一月十二日、大阪にて開かれたる保育會に出席した。諸先生の御話を拜聴した中、最後に稻葉園長先生が述べられた『遊戯に就て』の御説に關し、少しく所感を述べさせて頂き度い。

『幼兒に歌劇を演せしむる目的が、子供の爲めと云ふよりも寧ろ參觀者の賞讃を博する事に傾いてゐるならば、幼稚園の爲めの幼兒となり、保育の主旨に反す』とは終始私の考へてゐる所であるが、先生の仰せの如き深き御信念に基けるものなれば、如上の卑見には何等關せない譯である。

そこで、先生の御意の存する所を拜察して私が考ふるに

一、幼兒が歌劇を習得せんとして努力してゐられる事は結構だが、其努力してゐられる事が、本人の心身の發育の程度に最も適當してゐるかどうかを、常に注意しなければならぬと思ふ。

天才教育等の例より見れば、眞に子供の本心に適

合せる活動にては、子供が之を行ひつゝある時既に大なる興味あり、其興味に依りて我知らず努力してゐるのであるから、本人は少しも無理や苦痛、辛抱を感じない。

現在吾人の行ひつゝある教育法、子供に提供しつゝある教育材料が、どの位の程度に迄子供の本心に適合してゐるかといふ事は、子供が、之を課せられてゐない時にも自發的に反復し、或は進んで之を教へられむ事を要求するのが如何に熱烈であるかといふ程度にて判断が出来るであらう。斯くして我々は、常に自ら反省して、出來得る限り子供の本心に適する様、自然の發達律に副ふて子供を教育すべきである。斯くしてこそ、子供の努力は、其過程に於ても結果に於ても共に最も價值ある事となるであらう。

二、幼兒の藝術的材能を開發せしむるには、遊戯以外にも此目的に叶ふ保育科目があらう。只遊戯は大人の眼に最も美しく見られ、私も當日

の遊戯を拜見して其華やかにして可愛らしきしかも巧なる動作には賞讃措く能はなかつた者である。之に比して手技は、其處に直接幼兒の愛らしき御姿を見得ない爲か、或は年長兒の作品と比較せられ易き爲か、遊戯程に大人の賞讃を博する事が出来ない。

しかし、既に我々の目的が藝術的材能の開發にある以上は、上述の如き賞讃の多少を以て保育科目の價値を論ずべきでなく、其の保育が幼兒の心身に對する交渉或は影響の如何に依て其價値を論ずべきである。斯く考ふれば、手技も遊戯と同様の價値を有するもので、殊に幼稚園の本領とも云ふべき自發的創造作用の開發は、書き方、砂遊、粘土細工等に依て最も適切に實現さるべきものと思ひ、此點に於て遊戯はいさゝか遜色ありと認む。私は、幼稚園に於ては、上の如き手技には遊戯以上に力を注ぐべき必要あり價値ありと思ふ。

三、幼兒が、自己を他人に認めしめたいといふ本能的慾求を有し、之を満たしめる事が大切なのならば、天才教育の如きは最も此主旨に叶へるものであらう。私は、木村久一氏著『早教育と天才』を讀んで、初めて早教育が如何に合理的であり、且結果の偉大

なるものであるかを知り、其後益々幼兒教育に興味を深うするに至つた者であるが、僅か九歳にて大學に入學し、十四歳にて哲學博士、十六歳にて法學博士となつたカール、ギッテ等は、如何に名聲噴々たるものであつたらうと思ふ。早教育は尙今日以後の問題で、學齡前の教育に重きを置くものであるから、幼稚園にも適當な方法で此精神を取入れ、家庭と協力して大に研究、實行されん事を望んで止まない。

松村武雄、田邊尙雄 講

### 童話童謡及音樂舞蹈

右は兒童研究講習録第六編として、兒童保護研究會より最近發行せられた。

童謡舞蹈が近來非常に盛になり多少流行や上すべりをまぬかれ難い傾もありはしまいかと思はるゝ時、斯界の權威たる兩氏の研究を發表せられたのは誠によろこぶべき事である。